



杉本 康雄

社団法人東北経済連合会 常任理事
環日本海経済交流委員会 副委員長

自然栽培塾 開講

“木村秋則氏”をご存知だろうか。

1949年、青森県岩木町（現弘前市）生まれ。1971年から家業のリンゴ栽培を中心とする農業に従事。農薬で家族が健康を害したことをきっかけに無農薬・無施肥栽培を模索する。10年近く収穫、収入が無くなる等苦難の道を歩みながら、遂に無農薬・無施肥のリンゴ栽培に成功。世間からは「奇跡のリンゴ」と呼ばれている。

木村氏が実践する自然栽培法は、有機栽培ではなく自然界のように豊かな自然環境に田畑を近づけるための人為的農法である。山の木々は人間の手が入らない環境でも、肥料・農薬が無くても立派に育つ。まさに山に教わった農業栽培法であり、消費者の食の安心・安全を重視するニーズに対応できる栽培法として注目されている。

その木村氏が塾長を務める「木村秋則自然栽培ふれあい塾」が当行と青森県南部町との共催により本年4月に開講した。

塾の開講期間は4月から9月までの6ヶ月間である。8月を除く計5回実施し、それぞれ一泊二日の日程で、水田と畑で実地研修を行うプログラム。米、小麦、スイートコーン、きゅうり、トマト等の作付け、土づくりや土壌管理、除草方法、生育管理、収穫等を一貫とした農業研修方式である。

塾生は老若男女100名を超え、年齢層は20代から70代までと幅広く、青森県内をはじめ東北一円、首都圏、遠くは広島県からも参加している。いずれも農業に意欲ある方々で、東日本大震災で被災し自宅と仕事を失い、農業で再出発を志す若者もいる。

農業をビジネスとして捉え、収支バランスのある経営、魅力ある産業としての発展性を造り上げていく事が必要であり、農産品取引で「原価が幾らだからこの値段で買ってほしい」「この値段でも買いたい」と言える、言わせるような一次産品としての付加価値、更に加工による新たな価値創造、そして6次産業化するビジネスモデルに転換する一助になればと願っている。

青森県はりんご・ぶどう等の果実、にんにく・ごぼう・長芋等の根菜類等、国内トップレベルの農産品を全国に販売している。数多ある農業栽培法の一つとして、「無農薬・無肥料・無除草剤」での自然栽培法による、“人に優しく、自然にやさしい”農業栽培研修へ、農業の将来に夢を馳せ、「自然栽培塾」は動き出した。

（株式会社みちのく銀行 代表取締役頭取・すぎもと やすお）